

業務効率化へ向けた京都府木津川市、学校規模適正化のため統廃合に取り組む大阪市を視察

木津川市は、早くから会議の効率化やペーパーレス化、RPAやAI-OCRの実証実験を進めている。働き方改革や経費削減などに成果を上げている。

大阪市の小学校数の傾向は、小規模校化している。反面、一部地域では児童数が急増している。平成29年度から対策プロジェクトチームで課題解決に向けて議論中である。働き方改革や経費削減の取り組み、学校規模の適正化に向けた取り組み事例を調査した。

▼木津川市の視察内容

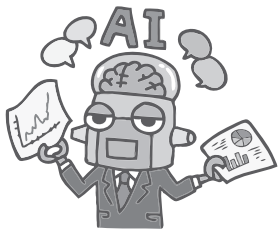
平成27年度から会議の効率化として事前資料配布、ペーパーレス推進のため市内無線LANを配線シタブレット端末を配備した。資料データを共有することで会議時間の短縮につながっている。

事務効率化では、RPA（ロボティック・プロセス・オートメーション）及び紙による申請書の文字情報をAI-OCR（人工知能による光学文字認証）の実証実験を進めている。効果が見込まれる3業務（年末調整、児童手当現況届、児童クラブ延長料金徴収）を抽出し、効果計

（総務文教委員会所管事務調査）

測を進めている。ICT導入（RPA、AI-OCR等）について、定型業務の短縮化、ヒューマンエラーの防止、人件費の削減につながる業務など、対象とすべき業務の検証を踏まえた上、導入検討を進める。AI機能のシステムの進歩と共に、専門的知識を有する人材の採用や研修が必要である。

本市における検討課題としても十分な調査内容であった。



役所業務をAIが支援する木津川市視察

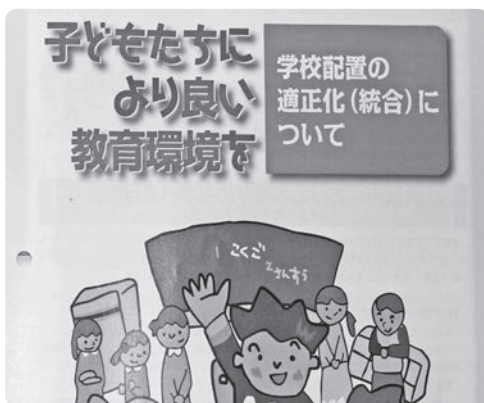
▼大阪市の視察内容

学校規模適正化については、審議会答申「今後の学校配置の適正化のすすめ方について」に基づき取り組みを進めている。児童数の大幅減少という全体傾向により、小規模校対応の基準として取りまとめている。適正化方針の基本は「統合」であり、「校区の変更」である。校区の変更には、児童の友人関係や兄弟関係などの配慮や統合前に対象校同士の交流活動や地域子ども会の合同活動の実施等をしている。

大規模校解消は、小学校3校が対象となっている。今後は、新設校を目指す方針である。他

に「学校選択制」を実施している。メリットは①親子で意見を述べ、学校を選ぶことができる②親子が学校教育に深い関心を持つ③特色ある学校づくりが進められる④開かれた学校づくりが進む等が挙げられている。

本市の大規模校については、審議会答申を基に、新設校の建設構想を打ち出すことが望まれる。「学校選択制」は通学の安全確保や郷づくりなどの課題があるものの、過大規模校対策として参考に値すると考える。



大阪市の参考資料

歴史的な町並みを活用した観光振興を行っている千葉県香取市、デマンドタクシーの取り組みを行っている千葉県市原市を視察

香取街道沿いの歴史的町並みを保存する香取市。民間と協力して外国人観光客を多く集客している。またこの地は伊能忠敬が名主だった地でもある。

デマンドタクシーを導入する市原市の特徴は、市民が運営協議会を作り、交通政策を立案、運営をしている。本市がこれから取り組む津屋崎地域の観光拠点としての政策や公共交通網の整備について先進地の事例を調査した。

▼香取市の視察内容

平成28年には、香取市を含む北総四都市は江戸を感じる町並み群として日本遺産に認定されている。また、伊能忠敬関係資料が国宝に指定されている。さらに「佐原の大祭」での山車が、千葉県内唯一のユネスコ無形文化遺産に登録されている。

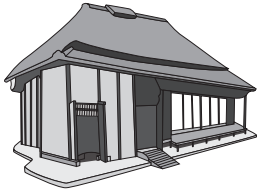
来訪客は外国人が多く、観光案内では施設での多言語表記を行っている。国等の関係機関が行っている在外公館による外国青年を任用する制度JETプログラムを活用し、タイ人とアメリカ人の国際交流員(CIR)を2人配置している。インバウン

(建設環境委員会所管事務調査)

ド対策としては、SNSや海外現地での情報を拡散している。

視察を終えて、本市では市全体で津屋崎地域の歴史的町並みの価値を共有し、保存や観光といった意識の醸成を図っていかなければならないと考える。

また、本市は観光資源を観光客誘致に十分生かしてきていないと考える。この視察を通し周辺自治体と連携し、旅行会社やバス会社にツアーを提案することが必要だと提言したい。



伊能忠敬の郷土 香取市佐原

▼市原市の視察内容

交通政策について市民と行政と事業者が協働して取り組んでいる。同市の特徴は、行政から提案するのではなく主体は運営協議会に任せられている。運営協議会は自治会長や地域の推薦人から構成されており、1、2カ月に1回程度会議を開催。会議では運行状況や収支状況を検証して運行改善を行っている。

行政は財政的支援として導入のための事務経費のうち年間10万円を上限として支給。また運行支援として運行経費の2分の1の額が、運行赤字のいずれか少ない方を支給している。残り

の運行経費は地元負担としていた。

市原市においても営業路線との競合があるものの、地域住民が主体的に交通網を考えていることから事業者も協働の姿勢で寛容な話し合いが行われていた。視察を終えて、本市においても地域の交通体系は住民自治に任せることを検討してはどうかと考える。そのことによって地域の問題意識として公共交通をとらえることができ、住民に有意義な交通手段になると考える。



デマンドタクシー 市原市視察

女性の視点で議会改革に取り組んだ千葉県 取手市議会、ICT化等分科会を設置してい る千葉県習志野市議会を視察

取手市議会は平成29年「女性議員による議会改革特別委員会」を設置し、女性の視点で議員活動を検証した。

習志野市議会は議会基本条例の制定を見送った。また、タブレット型端末導入と議会のペーパーレス化により行政コストの削減を行っている。両市議会の議会改革の現状を調査した。

取手市議会の取り組みについて

特別委員会において会議規則の一部改正、議会および委員会の欠席理由として出産・育児、介護などを明記。また、議員報酬条例も平成30年に妊娠・出産とそれらを起因とした疾病による長期欠席をした場合は、報酬減額の対象から除外されるように変更した。さらにこれらの動きは取手市だけではなく、国の法整備に関わることとして、平成30年に国に対し意見書を提出している。

習志野市議会の取り組みについて

「議会基本条例」及び「議会のICT化」をテーマとし、議会改革検討協議会を設置した。

(議会運営委員会所管事務調査)

基本条例の検討結果は、規定すべき事項がすでに実施しているため、改めて基本条例を制定する必要性がないとした。また、タブレット型端末を導入し、ペーパーレス化が実現した。費用対効果は、消耗品費、印刷製本費、人件費、合計755万円の削減効果となった。



女性の視点から取手市議会視察

中学生が議会形式で 福津市の未来を市長らに提言

「福津市のこれからについて」をテーマに各中学校生徒会メンバーが3回の会議を重ねてきた。

4回目となる中学生未来会議(令和元年11月9日)は福津市議会の本会議場で開催し、市長・副市長・教育長の出席のもと12議案を提出した。一部議案を紹介。どれも夢があり「福津愛」が溢れる議案ばかりだった。

・Let's build a Dome!!

資金はクラウドファンディングで長年かけて集め、ドームを作り、自然と共生できるまちに。

・「教えて!おばあちゃん、おじいちゃんプロジェクト

お年寄りは「知恵教室」を、若者は「スマホ教室」など、異年齢の交流を増やし地域が一つの大きな家族となるまちに。

・Come Back 割烹

市のおいしい食物や工芸品を、在住歴に応じて割引制度で販売し、特産品のPRと地産地消の拡大を図る。



本会議場で提案する中学生と議長を務める各校の生徒会長

